

ご注意いただきたいこと

- ヤーボイは重大な副作用を引き起こす可能性があるため、特に⑧ページの症状が現れた場合は、すぐに主治医に知らせましょう。これらの症状が現れても、市販の薬や栄養補助食品など主治医が処方したもの以外は使用しないでください。
- ヤーボイは移植臓器に対する拒絶反応を起こす可能性がありますので、臓器移植歴（造血幹細胞移植歴を含む）がある場合は必ず主治医に知らせてください。

ご注意いただきたい症状

消化器

- 下痢（軟便）あるいは排便回数が増えた
- 便に血が混じる、便が黒い、便に粘り気がある
- 腹痛あるいは腹部の圧痛（押すなど圧迫した時に現れる痛み）がある

皮膚・粘膜

- かゆみがある
- 皮膚がむける（水ぶくれがある場合と、ない場合がある）
- 発疹がある、赤くなる（かゆみがある場合と、ない場合がある）
- 口内炎

その他

- 視界がぼやける、物が二重に見える、いつもと見え方が異なる
- 眼が痛い、充血がある
- 発熱がある
- 息切れ、息苦しい
- 吐き気や嘔吐がある
- めまいや失神がある
- 疲れやすい
- 頭痛がある
- 足、腕、顔に力が入らない
- 筋肉の痛み
- 行動の変化がある（性欲が減る、いろいろする、物忘れしやすい等）
- いつもより出血しやすい、あざができやすい
- 手足がしびれたり、刺すような痛みがある
- 濃い色（赤褐色や褐色）の尿ができる
- むくみがある
- 皮膚や白眼が黄色くなる
- 胸の痛み
- 動悸

!
ヤーボイの副作用は治療が終わってから数週間後、数ヵ月後にも現れることがあります。治療が終わった後も気になる症状があれば医師に相談してください。

ヤーボイによる治療を受ける方へ

ヤーボイとは

ヤーボイは、「免疫機能へのブレーキ」を解除することで、がん細胞を攻撃するT細胞の働きを維持するお薬です。

ヤーボイによる治療は、手術による治療が難しい悪性黒色腫、腎細胞癌、高頻度マイクロサテライト不安定性を有する結腸・直腸癌、非小細胞肺癌及び悪性胸膜中皮腫の患者さんが対象となります。

投与方法

ヤーボイは、静脈から30分かけて点滴注射で投与します。投与量は、患者さんの体重によって決まります。

治療スケジュール

●悪性黒色腫、腎細胞癌、高頻度マイクロサテライト不安定性を有する結腸・直腸癌

ヤーボイは投与した次の日から20日間は休薬し、3週間ごとに繰り返し4回投与します。

●非小細胞肺癌、悪性胸膜中皮腫

ヤーボイは投与した次の日から41日間は休薬し、6週間ごとに繰り返し投与します。

1 消化管障害

下痢や、大腸に炎症が起こる大腸炎を発症することがあります。初期症状は、下痢、排便回数の増加、腹痛、血便です。これらの症状とともに、発熱を伴う場合もあります。また、消化管に穴が空く消化管穿孔を起こすこともあります。

よく現れる症状

- 下痢（軟便）、排便の回数が増える
- 便の異常（便に血や粘液が混じる、便が黒い）
- 腹痛、腹部の圧痛（押すなど圧迫した時に痛む）
- 吐き気、嘔吐

2 肝障害

血液中の肝酵素（AST、ALT、総ビリルビン値など）の数値が基準値より高くなります。定期的に肝機能検査を行います。

よく現れる症状

- 血液中の肝酵素の増加
- 皮膚や白眼が黄色くなる（黄疸）
- いつもより疲れやすい

3 皮膚障害

かゆみや発疹など皮膚障害が現れることがあります。発疹には、かゆみがある場合と、かゆみがない場合があります。そのほかに皮膚がむける（水ぶくれがある場合と、ない場合がある）などの症状がみられます。熱を伴う全身の発疹や急激に悪くなった場合はただちに医師に連絡してください。

よく現れる症状

- かゆみ
- 発疹がある、赤くなる（水ぶくれがある場合と、ない場合がある）
- 皮膚がむける（かゆみがある場合と、ない場合がある）

4 神経障害

筋力の減退、手足のしびれや脱力といった下記の症状がみられます。そのほかに髄膜炎や炎症性筋疾患などを起こすこともあります。

よく現れる症状

- 手足や顔に力が入らなくなる
- 手足にしびれや刺すような痛みが現れる
- めまい、失神
- 歩きにくくなる

5 内分泌障害

新陳代謝を活発にする甲状腺ホルモンなどを分泌する内分泌器官に炎症を起こして、下垂体炎、下垂体機能低下症、甲状腺機能低下症、副腎機能不全などの内分泌障害を発症することがあります。これらの障害では、疲労、頭痛、視覚や行動の変化などの症状が現れることがあります。

よく現れる症状

- いつもより疲れやすい、眠くなりやすい
- 頭痛
- 低血圧
- 視界がぼやける、物が二重に見える（視野欠損）
- 行動の変化（性欲が減る、イライラする、物忘れが増えるなど）
- 電解質異常（血液中のカリウムやナトリウムなどの数値が基準値よりも低い状態です）

6 腎障害

腎臓の機能が低下すると、血液中のクレアチニンの数値が基準値よりも高くなります。また、むくみ（浮腫）^{ふしう}が起きたり、濃い色の尿が出たりします。

よく現れる症状

- むくみ（浮腫）
- 尿の色が濃い（赤褐色など）
- など

7 間質性肺疾患

空気を取り込む肺胞という器官が炎症を起こす病気です。炎症が進むと、肺胞が硬くなってしまって空気を十分に取り込むことができなくなり、命に危険が及ぶおそれがあります。間質性肺疾患の初期には、酸素をうまく取り込めなくなり、息切れがしたり、息苦しいなど下記の症状が現れることがあります。

よく現れる症状

- 息切れ、息苦しい
- 発熱
- 痰のない乾いた咳（空咳）
- 疲労
- など

8 筋炎

筋肉の炎症により、筋肉に力が入りにくくなったり、疲れやすくなったり、痛んだりする病気です。

よく現れる症状

- からだに力が入らない
- 発熱
- 筋肉の痛み
- など

9 心筋炎

心筋の炎症により、胸痛や発熱などの症状が起きます。急性の場合、命に危険が及ぶおそれがあります。

よく現れる症状

- 胸の痛み
- 動悸
- 息切れ
- 発熱
- など

10 そのほかの副作用と症状

貧血や リンパ球減少	血液中のヘモグロビンやリンパ球の数が減ることがあります。ヘモグロビンが減ると貧血を起こしやすくなったり、疲れやすくなったりします。リンパ球が減ると、風邪やそのほかの感染症にかかりやすくなります。
食欲減退	治療中に食欲が低下することがあります。食欲減退はよくみられる副作用のひとつです。
眼の症状	霧がかったように見えたり（霧視）、眼が痛んだりします（眼痛）。また、ブドウ膜炎では眼球を覆う膜に炎症が起こり、霧視や、まぶしかったり、虫が飛んでいるように見えたりします。進行すると、失明する可能性があります。
関節痛	関節が痛む、関節が腫れるなどの症状が現れます。

III 炎症性の副作用について

ヤーボイはがん細胞を攻撃するT細胞の働きを維持するお薬ですが、T細胞が過剰に働くと炎症性の副作用が起きることがあります。消化管、肝臓、皮膚、神経系、内分泌系などの器官に副作用が起きた場合、以下の症状が現れます。

消化管障害	下痢、腹痛などの症状が現れます
肝障害	血液中の肝酵素が基準値より高くなります
皮膚障害	発疹や、赤くなる、かゆみなどの症状が現れます
神経障害	手足のしびれ、脱力などの症状が現れます
内分泌障害	頭痛、疲れなどの症状が現れます
腎障害	血液中のクレアチニンが基準値より高くなります
間質性肺疾患	息切れ、呼吸困難、空咳などの症状が現れます
筋炎	筋力低下、筋肉痛、発熱などの症状が現れます
心筋炎	胸の痛み、動悸、息切れ、発熱などの症状が現れます

これらの症状に気付いたら、自分で対処しようとせず、すぐに医師、看護師、薬剤師に連絡してください。炎症性の副作用に対して、**副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）投与やホルモン補充療法**を行います。

⚠️ これらの症状が現れたら、すぐに医師、看護師、薬剤師に知らせましょう。
また、ヤーボイの副作用は治療が終わってから数週間後、数ヵ月後にも現れることがあります。
治療が終わった後も気になる症状があれば、医師に相談してください。